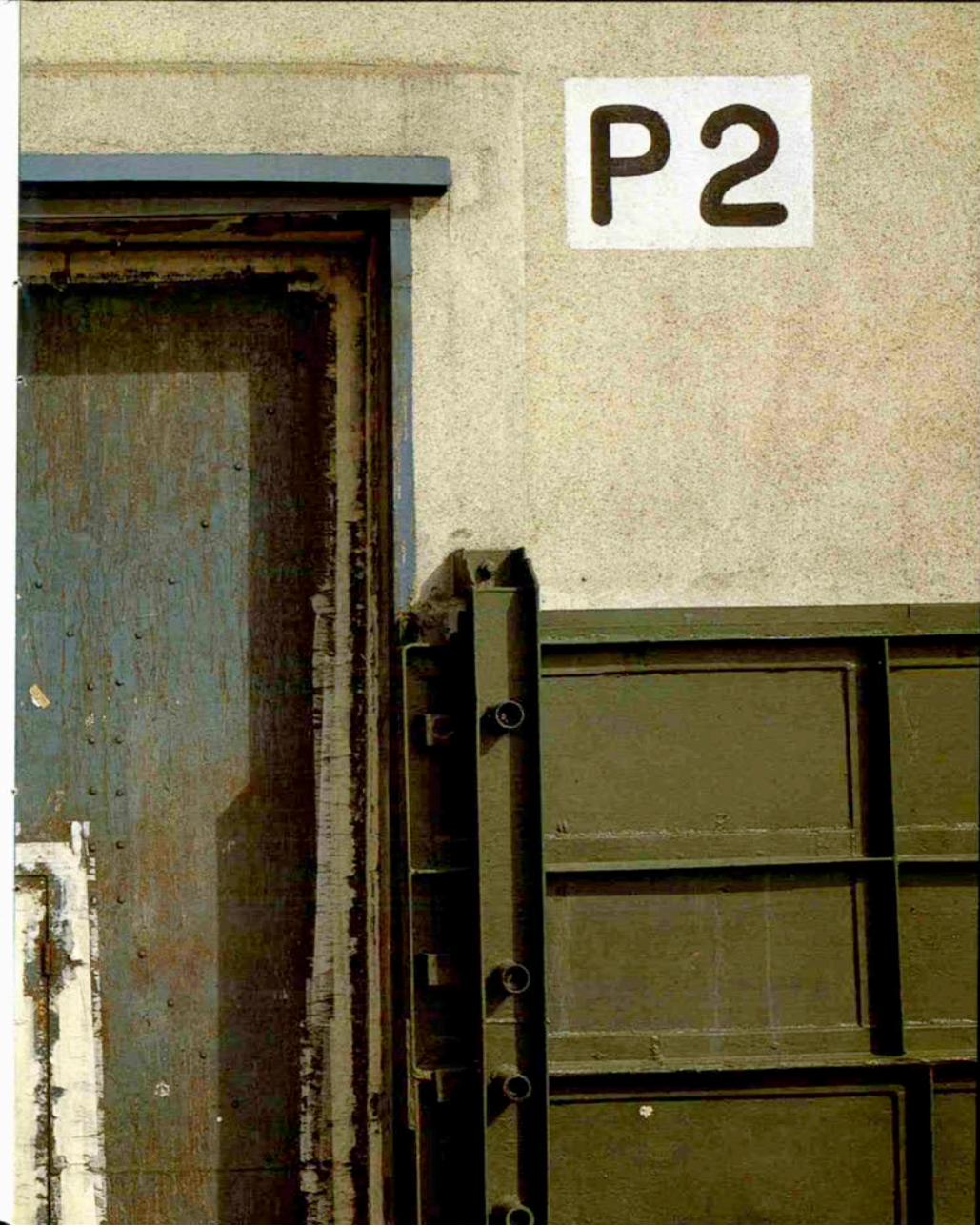


神戸のディテール

Detail of KOBE 〈67〉

石坂 春生 写真 / 杉尾友士郎

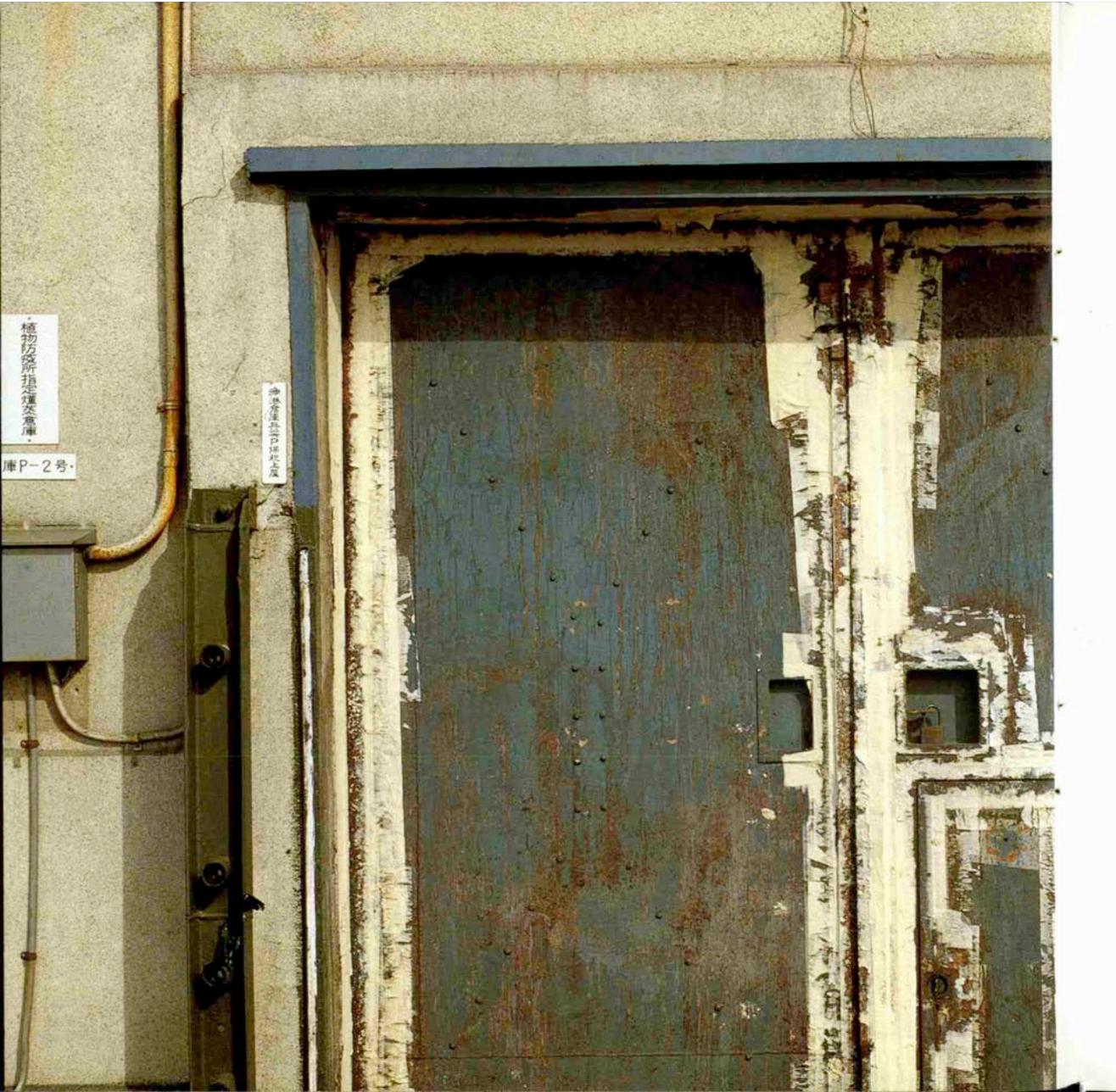
P2



植物防疫所指定種交倉庫

庫P-2号

浄化槽建設工事代金





spring choix

可麗な春のあなたに変身
アラベスク模様にする細やかさに
女らしさが光ります

真珠・貴金属・毛皮・輸入婦人服

ムスタ

さんちかレディスタウン

(神戸市生田区三宮町1丁目1)

☎ (078) 391-3886

本社

(神戸市生田区元町通6丁目35の2明邦ビル)

☎ (078) 341-8041

ちよつと改まつた席に…という時にお勧めしたい一着。青い礼装服

タキシード



洋服 / 紳

渡邊

神戸店…神戸市灘区磯上通8・1・32
東京・大阪
電話 078・251・8501
代路

秘宝色のひとしずく

深い眼を越えて今めざめた
いわれなき神秘の輝き
秘宝色のひとしずく
磨きあげた歴史の逸品を
カネコパール
ときめく春のコレクションより
お選びください



Pearl
+spring+
Four season
79 KANEKO PEARL COLLECTION

カネコパール

ときめく春のコレクション

●と き / 3月16日(金)~18日(日) AM10:00~PM6:00

●ところ / 神戸本店

真珠*宝石

 金子真珠

神戸本店

神戸市東灘区住吉町堂ノ本1824 ☎078(811)2819 〒658



インターナショナル・レディへの序曲がいま…



Boutique
Esther Newton

神戸市生田区三宮町2-1-5 センタープラザA棟2F ☎ 332-5307
本店/トアロード ☎ 331-1818

素敵な出逢い—神戸のエスプリ

きらめく光の中へ

いま、はばたく小さな心
まるでやわらかな光の中へとけこむように
新しい季節の出発。



掲載商品(ポーシャル)セータースーツ ¥52,000 ベスト ¥24,000

“ニューフォーマルへのご招待”

同窓会、会合…春は、気のはるお出かけの多い季節。
ただ今、くりザ・サロンでは、
春のニューフォーマルウェアを取り揃えております。
一度お出かけくださいませ。



神戸本店

南田洋子

ちょっとクラシックなシルエツトで……

春はやわらかな着こなしを楽しみたいですね。

衣裳提供

(ミュージックフェア・特ダネ登場・クイスタービー)に南田洋子さん着用

第3回くりザ・ホリデーアーススペシャル会員募集中!!

“有川博とともにアメリカ西海岸ディズニーランド8日間の旅”

●会員ご優待価格: ¥228,000(大阪発)

●期間: 6月2日(土)～9日(土)

詳しくはお近くのくりザ・サロンでおたずねください。



リザはファッションを通して豊かな生活を考えます

LIZA

神戸本店

神戸市生田区三宮町1-17-4 センタープラザ3階

電話078(391)6806(代)

掲載商品のお問い合わせは神戸本店まで

●近畿地区のくりザ・サロン)ご案内=大丸京都店1階、2階/
そごう大阪店1階/阪急ファイブ地下1階/心斎橋バル2階/
なんばCITY1階/そごう神戸店2階/大丸神戸店2階/
大丸新長田店1階/センタープラザ1階
サービス提携店=梅田かわい

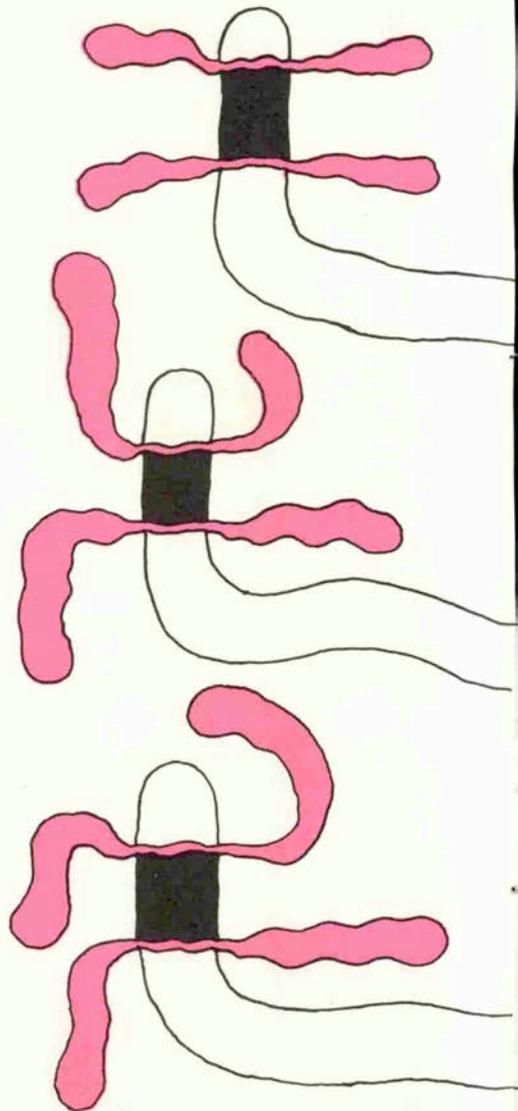
●全国くりザ・サロン)のご案内=札幌・仙台・水戸・千葉・東京・
名古屋・京都・大阪・神戸・岡山・広島・小倉・大分・熊本・鹿児島

これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の手帖です

3月 目次 NO. 215

- 表紙 / 小磯良平 (部分)
セカンドカバー / 僕の見た神戸(3) / 西村 功
9 第八回ブルーメール賞・文学部門 / 桜井利枝 ファッション部門 /
米田博司 音楽部門 / 坂本 環 古典芸能部門 / 藤井徳三
美術部門 / 堀尾貞治
16 イメージの神戸(24) / 堀内正和
18 神戸のディテール(69) / 石阪春生 / カメラ・杉尾友士郎
29 私の意見 / 須田 勇
30 第八回ブルーメール賞受賞者発表
32 随想 / 松井憲作 / 片山晴美 / 宮田 隆
36 連載エッセイ・私のひろいもの(3) / 町の音 / 竹中 郁
38 エッセイ / 神戸の女性たち / 田辺聖子
40 神戸市外国語大学と神戸(6) / 田島 博
43 ある集いその足あと / 前田 薫
44 創刊18周年記念座談会
神戸は今、開港以来の歧路に立たされている
梅棹忠夫 / 久山 康 / 大島賢二
50 経済ポケットジャーナル
52 第八回ブルーメール賞選考座談会
文学部門 / 小島輝正 / 森川達也 / 島 京子
ファッション部門 / 福富芳美 / 森本泰好 / 畑崎広敏 /
藤本ハルミ / 小泉美喜子
56 音楽部門 / 吉村一夫 / 柴田 仁 / 小石忠男
58 古典芸能部門 / 佐野淳真 / 坂元英夫 / 小泉康夫
60 美術部門 / 赤根和生 / 乾 由明 / 増田 洋 / 草野拓郎
62 技術ジャーナル(139) / 諸岡博雄
64 ファッション学講座・レッスン3 / 岡田 淳
66 ノちゃんの華麗なる食べある記3 / 小山乃里子
70 キャンペーン・国際文化都市神戸を考える
商業人の燃える心が明日の神戸をつくる
松谷富士男 / 菊水啓輔 / 渡辺千城 / 松宮隆男
76 KOBE FASHION SPOT
81 コウベスナップ
83 ある集い / 神戸能面工芸会
84 NEUE MODE MARCHEN - 15 / 篠原順子
113 神戸の催し物ご案内(3月)
114 動物園飼育日記(150) / 亀井一成
121 神戸の集いから
122 六甲山100コース(9)黒岩尾根 / 檜崎四郎(10)シェール道 / 南ゆう子
126 神戸を福祉の町に(63) / 橋本 明
128 話題のひろば / 第三回神戸文学賞授賞式 / 諏訪根自子リサイタル
130 ファッションレポート / 桂 由美さんに聞く
133 K F S ニュース
136 私の映画手帖(15) / 淀川長治
138 女体百景(79) / 時には娼婦のような女 / 細川 薫
140 ぴつといん
143 神戸百店会だより
144 ポケットジャーナル
148 連載小説 夢の消滅(3) (第三回神戸女流文学賞受賞作品)
大原由起子 / え・南 和好
154 連載小説 自由と正義の水たまり(3) (第三回神戸文学賞受賞作品)
斎 竜 / え・小西保文
159 トーク&トーク・トラベルコーナー
174 アルファベット・アベニュー「X」 / 新井 満・石阪春生
176 海船港 / 帆船を神戸に / 倉掛喜八郎

カメラ・米田定蔵 / 藤原保之 / 橋本英男 / 後藤 孝 / 速水 享
目次 / 元永定正



s. motonaga '79

国際派ビジネスマンを養成する

第一期生募集中 締切迫る！

4月16日開校

国際観光学科

実務の基礎から国際的センスまで……幅の広い国際サービスマンを養成

カリキュラム / 観光総論、観光サービス論、国内観光各論、国際観光各論、交通輸送論、ホテル概論、旅行業実務、食品知識、英会話、観光英語、法学概論ほか。

資格検定試験取得目標 / 実用英語2級以上 (日本英語検定協会主催) 旅行業務取扱主任者 (国家資格) 通訳案内業 (国家資格) 簿記2級 (日本商工会議所主催) 英文タイプ技能C級以上 (日本商工会議所主催)

募集定員 / 80名 修業年限 / 2年 入学金 / 二十万円 授業料 (年額) / 二十五万円

国際貿易学科

国際協調時代にふさわしく、グローバルな視野と判断力をもつ実務家を養成

カリキュラム / 外国為替、航空輸送概論、貿易実務、海上保険論、通関業務、貿易英語、商業英語、英会話、法学概論、簿記、外国事情、商品学、秘書実務ほか。

資格検定試験取得目標 / 実用英語2級以上 (日本英語検定協会主催) 商業英語検定Bクラス以上 (日本商工会議所主催) 簿記2級 (日本商工会議所主催) 英文タイプ技能C級以上 (日本商工会議所主催) 秘書実務 (実務技能検定協会主催)

募集定員 / 80名 修業年限 / 2年 入学金 / 二十万円 授業料 (年額) / 二十五万円

経営実務学科

質的向上への転換の時代にふさわしい合理性に徹した経営実務家を養成

カリキュラム / 商業簿記、工業簿記、会计学、原価計算論、簿記論、財務諸表論、経済学、経営学、所得税法、法人税法、経理実践、会社経営実務、監査論ほか。

資格検定試験取得目標 / 簿記1級 (日本商工会議所主催) 税理士 (国家資格) 英文タイプ技能C級以上 (日本商工会議所主催) 珠算2級以上 (日本商工会議所主催) 秘書実務 (実務技能検定協会主催)

募集定員 / Aコース (2年制)、Bコース (1年制) 各40名 入学金 / 各コースでそれぞれ十五万円 授業料 (年額) 二十五万円。

別科

経理科 / 日商簿記3級コース、日商簿記2級商簿コース、日商簿記2級工簿コース、日商簿記1級会計コース、日商簿記1級原計コース 実務簿記コース
募集定員 / 各コース30名

旅行業務取扱主任者受験科 / 一般コース、国内コース、
募集定員 / 各コース30名

英会話科 / 初級コース、中級コース
募集定員 / 各コース10名

税理士受験科 / 簿記論コース、財務諸表論コース、所得税法コース、
法人税法コース
募集定員 / 各コース30名

貿易実務課 募集定員 / 40名

★他にファッションビジネス学科を開講準備中です。



神戸国際ビジネス学院

神戸市葺合区琴緒町5-7 グリーンシャポービル7F

☎ (078) 242-7267 (代)



三度目の春の実り。

おかげさまでファッションパークは、三周年を迎えました。

FASHION PARK

トータルコーディネートファッション

●リザ・サロン

アクセサリ内外雑貨

●ルイ・ミッシェル

COLLEGE SHOP

●CABIN

バリ・ナウファッション

●フランス・アンドルヴィ

バリ・ナウファッション

●ジョージ・レッシュ

東京銀座・婦人靴

●ダイアナ

舶来婦人靴専門店

●Pia

ヤング&アダルトファッション

●ルベール

ヤングアダルトファッション

●ランプ

ファッションバッグ・アクセサリ

●美呂

原宿・婦人服

●CAN

銀座・婦人服

●ゲルラン

婦人服飾

●東京屋

新宿・レディスファッション

●高野

おしゃれな靴の店

●BON フカヤ

コンテンツポラリーファッション

●ザ・コレクション

東京ギンザ・レディスファッション

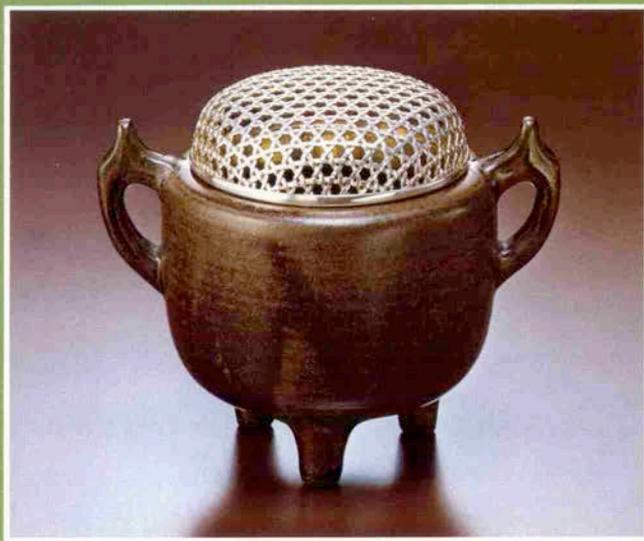
●三愛

神戸・三宮

さんブラザ・センターブラザ

3F

板谷波山作(香炉)



《そごう》が選んだ

陶芸の粋

題字 望月美佐

3月の

画廊催しのご案内

6階美術画廊

● 3/22 金 ↓ ワ / 水

■ 安井賞20年の歩み

安井賞受賞作家選抜展

● 9/金 ↓ 14 / 水

■ 高取宗家十二代 おやこ

高取静山母子展

● 16/金 ↓ 21 / 水

■ 次代の丹波を担う若手陶芸家たち

丹波陶友会展

● 23/金 ↓ 28 / 水

■ 四日市万古焼の新鋭

掘野証嗣茶陶展

■ 出品作品についてのお問い合わせは
TEL 078(515)6100 階美術画廊までご連絡
下さいませ。



神戸三ノ宮
そごう
TEL 078 221 4181

☆私の意見

総合的に文化の 教育・研究を

須田 勇

〈神戸大学学長〉



——経済よりも文化の時代とまでいわれ、最近では文化の問題がとりあげられています。神戸大学としてはどのような計画をおもちですか。

須田 従来の文学部では、哲学、史学、文学というように専門の分野別に教育・研究が行なわれてきましたが、神戸大学では、人間の精神文化と物質文明とを包括した広義の文化を対象として、文化総体に関する高次の教育や研究をということ、文化総合研究科という大学院を設置したのです。

そこで三年間研究して、学術博士という称号が与えられる博士課程ですが、修士課程において個別に分化した専門領域を修得し、研究の核を持つに至った者の受け入れを前提として、このように理念の具体化を指向した研究科は類例も少なく、修士課程を修了した者に対して広く門戸を開く意味からも独立専攻が適当なんですね。

——それは画期的なことですね。神戸の街の文化に重要な位置を占める大学としての役割りのひとつですね。

須田 京都大学には人文科学研究所という研究機関がありますが、この文化総合研究科では研究と同時に教育も含めるのです。

つまり京都大学人文科研では高次の研究がなされていますが、そういうところへも行けるような人材の教育もあるわけです。人材を送り出していくという役割りもあるのですね。従来、専門の研究というのが、非常に狭い領域でなされていたので、専門家であって知識の深さはあるけれども、いろいろな問題に対応しにくい。そんな弊をのぞきたいですね。

そこで文化学というものを体系的にやっていくわけです。そして社会に出て、例えば博物館であるとか教育機関、ジャーナリズムとか、社会文化、社会教育など広い領域において文化に対する造詣の深い方でタッチしていくということによって、地域の文化が成っていくのだと思います。

BM

★月刊神戸っ子18周年記念文化賞／第8回受賞者発表
ブルー・メール賞

副賞 各拾万円
 海の女神ブロンズ
 新谷琇紀制作

郷土を愛する人々の雑誌、月刊「神戸っ子」はこの三月号で十八周年を迎えました。

これもひとえに皆さまの暖かいご支援の賜と感謝いたしております。

さて、月刊「神戸っ子」では、神戸の文化を進めるため、ここに第八回「ブルー・メール賞」

（青い海）を設定し、各部門別に選考座談会を行ったうえ、左記の五人の方々に賞（彫刻家新谷琇紀氏による海の女神のブロンズ像）をお贈りすることになりました。また、副賞には地元企業のご協力により、各部門の受賞者に拾万円が授与できるようになり、心からお礼申し上げます。

地域社会の中から世界に通じる文化を育みたく、力いっぱい努力してまいりたいと思います。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

△授賞式は4月26日（木）サンポーホール／月刊神戸っ子18周年記念パーティで行います▽

□文学部門

選考委員 小島輝正・森川達也・島京子



桜井利枝

△「AMAZON」同人▽

桜井利枝作品の長所はすでに明らかであるのですが、それは表現のカンどころを確実に掴んでいる点で、素材の取捨選択が正確にできるということは修煉以前のすじがよいということ、この上にフィクションのうまみが増えれば言うことなしです。△島京子▽

□音楽部門

選考委員 吉村一夫・柴田仁・小石忠男



坂本環

△「声楽家」▽

坂本環さんは気さくな人柄だが、こと音楽に関しては猛烈な努力家。その積極性が練られた声の緻密な歌として結実し、昨年も関西歌劇団の二回の定期公演で主役を歌って、好評を博した。この度の受賞で彼女の歌に注目し、あたたかく支える人が増えればと願っている。△小石忠男▽

□美術部門

選考委員 赤根和生・乾 由明・増田 洋・草野拓郎



堀尾 貞治

△アーティスト▽

作家としての完成度は、まだまだ未知数であるが、制作にかけるエネルギーと次々と湧いてくるアイデアの豊かさにこの人の魅力の根元が見えるようだ。人と違ったことをやるという精神の発酵が今後どこまで整理され形成されてくるか非常に頼もしい将来がある。

△増田 洋▽

□古典芸能部門

選考委員 佐野漣箕・坂元英夫・小泉康夫



藤井 徳三

△能楽師▽

能という芸術もやはり格調の正しさと品位の高さが要求される。それは世阿弥の云う「習い徹る」というところから生れる。豊かな素質に恵まれた藤井徳三の活躍は日本の能界が期待しているところである。精進を祈る。

△小泉康夫▽

□ファッション部門

選考委員 福富芳美・森本泰好・畑崎廣敏・藤本ハルミ・小泉美喜子



米田 博司

△神戸市中心身障害福祉センター▽

利潤追求の手段とみられがちだったファッションを、生活を楽しくするための創造だとする原点からの見直しが行われている今日、米田さんの仕事はもっと評価されてよい。未開拓の分野だけに、いっそうの研究を期待する。

△森本泰好▽

★ブルーメール賞副賞協力会社ご紹介

株式会社 淡路屋
財団法人 井植記念会社
石野証券株式会社
UCC上島珈琲本社
ウシオ工業株式会社
オールスタイル株式会社
カネボウベルエイシー(株)
カワノ株式会社
株式会社 神戸製鋼所
角南商事株式会社
株式会社 そごう神戸店
株式会社 大丸神戸店
株式会社 太陽神戸銀行
田崎真珠株式会社
バンドー化学株式会社
株式会社 ワールド

<50音順>

随 想



「絵画弾」 松井 憲作

左ジャブ・ 右ストレート

松井憲作

△画家△

矢吹丈^{（？）}のところに舞い込んだ一枚の葉書「あしたのために（その1）—ジャブ—」、それは檻の外に居る丹下段平氏から出されたものでしたが、六年程前のある日、僕のところへ届けられた一通の郵便物は、桜の花びらに「東」という検印の押された小菅からのものでした。「幸い（？）」この数ヶ月は暇になり……という書き出し



製作中の松井さん

から始まった檻の中からの手紙は七十年安保の時に東京で学生運動をしていて捕まった友達からの数年振りの便りだったのです。

彼が東京に出た直後は彼の宿を訪ねたり、手紙のやり取りも何度かあったのですが、次第に彼は激しく活動をするようになり、一方、僕も様々のアルバイトや美術のグループの活動に忙しい日が続き、お互いに連絡がとだえてしまっていました。彼が捕まったことは、新聞で知りました。そして、

その手紙には、その後の彼の活動の経過や、拘留所での生活、あるいは、その時の心境・決意などが綴られていました。ハンマーで頭をぶん殴られたような衝撃を受けました。その当時、僕は、それまで属していた Japan Kobe Zero をやめた直後で、自分ひとりで一体どのような活動をしていったらいいのか、全く予定が立た

ず、お先真つ暗という状態だったのです。勿論、その手紙が来て、すぐに次の行動・制作に移れた訳ではなく何もすることのない日々が一年程続くのですが、その後届いた2〜3通の便りと共に、いつも彼のことが気になっていました。そして僕なりのやり方で何かをやらなければ、自分が素直にやれることをこつこつやっていこうと決め、描き始めたのが「絵画弾」という作品になったのです。身の廻りの物から描き出し、自分の考えている社会状況を、あるいは自分の置かれていた状況を絵画化し、自身の思考の方向性を示すという方法で作品を造り、ほぼ一年に一回のペースで個展をし昨年春の「絵画弾・5」までシリーズを続けました。そして彼は今も裁判中であり檻の外での暮らしも始まりました。

「絵画弾」というのは絵に画いた弾ですし、まして、手で形づくった拳銃から火を噴いて飛び出すはずはなく、もう一度いちからやり直しと始めたのが昨年から「晨（あした）のために」のシリーズです。晨とは夜あけのことであしたすとは夜あけを知らせる、朝の時を報ずるの意ですが僕のやり方であしたすことが出来るのかあるいは丈のように白く燃え尽き



ミュンヘンにてレッスンに励むヤンケー夫妻

ることが出来るのかは、今後のトレーニング次第と勝手に思い込みとにかく今は、ランニングする自分の姿を描きつつ、ライトに照らし出された四角いリングに登る日を夢見ています。

ジャブ、ジャブ、ジャブの連打から、必殺の右ストレート……！
松井憲作個展「嵐のために」
4月6日〜10日 ローズガーデンにて

二人で奏る 連弾の味を

片山晴美

ハピアニストV

ミュンヘンでオリシピックの行われた年の一月に始めて渡独したから、もう七年も前のことになる寒い季節で、慣れない生活と言葉の問題に悩みながら、最初の頃は度々にもメランコリーな感傷におち入り、ただひたすらに春の到来

を待ち望んでいたことを思い出す。それから私はミュンヘンの国立音楽大学で約四年半、学生生活を送った。その頃の私は限られた留学生活の時間内に出来るだけ多くのことを体験してみたいという野心にかられ、それらしき機会のあるごとにあちこちを歩きまわった。学生の特権を利用して、安い切符を手におペラや音楽会にせつせと通い、週末にはよくアルプスの山や湖に足を伸ばした。私にとっては水に放たれた魚のごとくにも生き生きとして、楽しい時代だったけれど、ピアノの勉強の方は苦しいことの連続だった。四才の時から二十年余りもピアノと共に明けくれ、今まで積み上げてきたはずのものも白紙に戻して、最初からやり直さなければならぬと思いついた時。けれども、何よりも幸せだったと思うことは、そんな中で少しづつでも積み木を積み上げていくことの大切さを、実に根気よく教えてくれた一人の先生に出逢ったことだと信じている。

彼—アンスタグ・ヤンケーとのつきあいは、だからもう古い。卒業試験をひかえての一年間は、血のほとばしるような厳しいレッスンの連続に悲鳴をあげたことも再々だったけれど、一方、その頃に深く感じた彼の芸術への信念はそのまま今の私のものとなって、透

明な断面図のように焼きついている。卒業して、遠いドイツに永住することを一大決心してから、その彼と結婚した。「音」にかけては厳しい人である。けれど心の底から慰められるように優しい音を持っている人だと私は思う。

ずっと昔から、私の生れ育った神戸の地で、彼と連弾の演奏会をするのが夢だった。「人と合わせる」ということは何でもそうだけれど、連弾——一台のピアノを二人が弾くこと——は、他の楽器と室内楽をやるよりももっと難しい。同質の音のぶつかりあいであるからかもしれない。息があう、心が通じている……というだけでは不十分で、細部にわたるまで二人共が強度の緊張を要し、ソロを弾くよりもほど神経が疲れてしまう。「夫婦であるなどと甘いことを思うな」と彼は口癖のようにいつている。「明日が本番だといつでも思っていること」——それだけ緊張の伴なう仕事である。けれど、それだけに一面こんな楽しいものはない。演奏者のその楽しさをどこまで聴いてくれる人に伝えられるかということが、私達の課題でもある。

四月五日、神戸の文化中ホールで演奏会をさせて頂くに際し、私達は今、一人でも多くの方が私達

と一緒にそんな連弾の味を味わって下さることを願っている。肩を
はらないで、心に感じるままに聴
いて頂きたいというのが、私の本
音である。(ミューヘン在)

アンダルシアと

フラメンコ

宮田 隆

〈フラメンコ舞踊手
フラメンコギタリスト〉

スペインの南、アンダルシア地
方、強烈な太陽の光、白い壁の家
々、まっ青な空、赤い土、地平線
まで続くオリーブの畑、黒い瞳に
小麦色の肌。

そこには、ふんだんに詩があり
歌があり、彼らの人生がある。そ
してアンダルシアこそフラメンコ
そのものであり、フラメンコはア
ンダルシアのハートなのだ。

そのアンダルシアが日夜、私を
苦しめる。その魔性が怪しげな手
振りで私を吸い寄せる。あれ程、
嫌だったオリーブの実を好きに



ブーロ・フラメンコを追求する宮田さん

なり、臭くて食べられなかった、
まずいスペイン食が美味しくな
り、どす黒いワインとオリーブ油
の臭いムンムンする食事をしな
いと活気の出ない私になってしまっ
た今アンダルシアの光景を思い出
すたびに、居ても立ってもいられ
なくなる。私にとって、世界で一
番美しい風景、それはアンダルシ
アなのである。それは、長い間、
探し求めていたフラメンコを、そ
こでやっと見つけることができた
からなのかも知れない。

フラメンコは大きく二つに分け
られる。ひとつは、フラメンコを
元に創りあげられた、芸術(アル
テ・フラメンコ)。もうひとつは、
何がフラメンコかを追求するフラ
メンコそのもの(ブーロ・フラメ
ンコ)。前者は主にマドリッドを
中心として、すでに世界で紹介さ
れている。後者は、フラメンコの
震源地と言われる、プエルト・デ・
サンタマリアを始めアンダルシア
全域に及んでいるが、なかなかそ
の外へは出ようとしない。それ由
に、ごく一部の人にしか知られて
いない。それはアンダルシアの人
々が誰よりもフラメンコを愛し、
大切にしているからかもしれない
し、アンダルシアを離れたら、フ
ラメンコの持つ独特な味わいが色
あせてしまうことを彼らが知って
いるからかも知れない。

そのチラリと垣間見たブーロな
フラメンコの、その奥深さは想像
を絶するものだった。そしてまた
また私は身震いする以上のその魅
力に引きずられていく。

しばしば不思議に思うことがひ
とつある。それは、日本人に(ス
ペイン人は一度もそれを聞いたこ
とは無い)あなたはギターが本職
ですか?踊りですか?と聞かれる
ことである。時には、二足のわら
じが何とかと言う人もいる。そん
な時、こう返事をする。「私はフ
ラメンコ一筋です」と。(本当は、
わらじは何足履いてもいいのだ。
足さえ沢山あれば……)

私の求めているものはフラメン
コそのもの、ギターだけでもない
し、踊りを踊るといふことだけで
もない。フラメンコはすべてを持
っているのだ。『FLAMENCO
『TIENE TODO』フラメンコは私
に人生を教えてくれる。フラメン
コで生きていくことが、最も自然
で、自分らしくって一番いい。そ
して、いつも私の脳裏にはあのス
ペインの青い空がある。ある日、
フラメンコが、私に言いました。
「おい!お前。リサイタルでも
したら ドウヤノ!」

ガンバリマス。

宮田隆フラメンコ舞踊リサイタル

『AY! AMOR!』

3月4日/6時50分開演/泉民小劇場にて

オリエンタル レディスクラブ

会員募集中



月例グルメの会：シェフによるメニュー説明

年会費：お一人 5,000円

割引：オリエンタルホテル、六甲オリエンタルホテル
での宿泊、飲食の際サービス料10%割引いたし
ます。その他いろいろの特典がございます。

特別催：随時、会員のための特別催しをいたします。

お問い合わせ

オリエンタルレディスクラブ事務局

神戸市生田区京町25 オリエンタルホテル内

☎(078)331-8111

異人館に(ラインの館(旧オーバーライン)) ユーハイムオープン!

ぶらり神戸の道すがら
ユーハイムでティータイム。

異人館の外観をそのまま喫茶室とケーキコーナーに。
北野町のユーハイムで、
伝統の味と異国情緒をお楽しみください。



- 毎週月曜定休
- 営業時間AM10:00→PM6:00
- 神戸市生田区北野町2-78ラインの館1F
☎(078)222-6266

ドイツ菓子
Fachheim's
ユーハイム

このマークのお店で買い求め下さい

□連載エッセイ／私のひろいもの△3▽

町の音

竹中 郁 △絵と文・詩人▽

いつごろから町の中の音がさわがしくなったか。明治の末、大正の中ごろ、いろいろの時期を思い出して思案してみる。

自動車のはしりだしのは大正のはじめ、大正五年くらいだったろうが、それも時たまで、見かけない日の方が多いくらいだった。

フランス文学者の小松清（十五年ほど以前に亡くなったが、あのドゴオル内閣の文化相の小説家であり美術好きのマルロオが日本へきたとき、あちこちと同行して案内したのは知られている。）は、むかしの県立神戸商業学校と神戸高等商業学校で学生だった。なにしろ勉強家で、道のあるいていても、手には必ず書物をひらいて持っていてそれを読みながら歩いていて。私の兄が小松より上級生だったので、あれは小松というてな、と教えてくれた。

電車の通る道のほかは、まずまあ荷馬車にしる人力車にしる、自転車にしる、ぶっつかっても大した怪我にはならなかったのだ。

そんなしずかな頃だから、戸外の音とは反対に、家の中からの物音や人声が大きく感じられた。私



吉野天人

は少年時代、兵庫の北仲町（今は兵庫区本町三丁目とかいう）で育った。問屋かまえの家が軒をつらねていて、なかに商品小売のひらき店がまじっている具合の町。となりのわが家の持家へ松村善藏という人が移ってきた。小規模な石油商売だったので、火が出たら怖いなあと子供心にしんぱいした。店員が三人くらい、家の奥の小さい倉庫へ石油を出し入れしている程度だったが、みるみるふくれ上っていった。

これが、今日の丸善石油のもののはじまりで、その松村氏は自分の社会的地位の上るにつれて、馬に乗りはじめ、ひげをたくわえ、謡のけいこを毎夜のようにその二階でひらいた。二階座敷の紙障子ごしに毎晩八時ごろになると謡がはじまる。その声は滝のようにわが家の中庭へふりそそいでくる。お師匠さんの先導につれて、弟子たち四、五人が復誦する。くり返しくり返し、同じ文句同じメロディ。

子供の私にその文句の意とするとところは判らう筈がない。その長調の声音のくるしそうな発声のくり返しに、そろそろ床の中で眠りたい私は却って眼が冴えて眠れない。今夜もか、今夜もか、と、とうとう私は謡というものがきらいになった。

一軒おいてその隣りには、野田仙市という義太夫の師匠が住んでいた。この家のけいこもきこえてくるのだが、この方は同じ判らぬ内容にしても、少し遠音とはいえ太棹の音色がよい。パチの動きも眼にかぶような楽しさもある。これが隣りで、松村氏が一軒となりなら都合よいのにと、しばしば思った。

廿才代になって、読書好きになってから、端本ではあったが謡曲集大成を活字でよむ面白さを知った。読めば読むほど、その勘どころが秀れている。



木

松村氏

15. Sept. 76.

て、身にしむような快感をおぼえた。となりの二階からふりそそいでくる音とは似ても似つかぬ愉快だった。

その上、こんどは演能の座席に陣取って絵をかいてたのしむことを覚えた。立派な衣裳をつけてゆるゆると舞ってくれるシテ。シテのみならずワキも囃し方も、みな絵になる。木炭紙の画帖にコンテ鉛筆で抑揚をつけ乍ら描くたのしみ。だれにでもできますよ、といいたいほど、意外にたやすくつかむことができる。劇物とちがって、能楽堂は手もとが明るいという有がたさがある。お客は概して行儀のよい人が多く、あつかましく覗きにくる人もない、といってよい。安心して描いていられる。

演能のスケッチをはじめてから、かれこれ十年とちょっとになるが、それらのスケッチを小磯良平君がときどきみて、「さまになってるなあ、シテの腰のすわりもとらえてあるなあ」と批評してくれるくらいになった。

この小磯こそ、能のスケッチに行けばいいのに出不精だから出かけはしない。小磯の実父は岸上文吉というて、謡のけいこに年期をいれた人だった。自ら鼓も打った人だった。そんな環境を経ているのだから、演能スケッチに興がわきそうなものなのに、出かけようとはしない。西洋のパレーなら好みに合うのだろうが、パレーは速いからその場ですぐとはいかない。記憶しておいて、あとで描くより仕方ない。

小磯は人にみられているなどということを妙に気恥かしがるたちなのだ。

□ エッセイ □

神戸の 女性たち

田辺 聖子 〈作家〉

絵／たかはし・もう



“お聖さんまで食べたらアカンでエ”

神戸の女流は多士済々、どうもホカの町より、人材が多い気がする。

こんなにノビノビと、女の子が仕事をしている町はない。その点でも、神戸はユニークな風土で私が東京や大阪で自慢している点である。

「まあ、こんなに女の子が活躍できる、というのは、男がえらいさかいやろ」

とカモカのおっちゃん、いつている。

「男が了簡せまく、気が小そうて、古いアタマやったら、女の子が出ようとすると、モグラ叩きみたいにコツン、とやるやろ。しかし神戸の男はよーしよし、やりなはれ、とあと押しする。男がえらいのや」

ということである。

私もちよっぴり、そのあとについて神戸の男の讚美をするとすれば、それは、男が、自分に自信があるからである。自信がなかったら、女の活躍をそねんだり、足を引っぱったりするであろう。

そういつて神戸の男性の一人にホメたら

「いや、そんな。自信なんて。——ただもう、女の人の活躍がまぶしいばかりで」

と怖ろしそうにいつていた。しかしこの点に関して、「マカン・ブッサール」の会員の一人、藤本ハルミさんも、

「たしかに、男の人がやさしいようで、女も仕事しやすいです」

と証言していたから、まちがいなからう。

そうだ、編集部にたのまれていたのは、神戸の女性をホメることだった。しかし私の持論では、女をよくするのは男、男をよくするのは女、だから、双方、切っても切れぬつながりがある。

ところで、この「マカン・ブッサル」だが、べつにこの会員だけが神戸の女性というわけではないが、たいそう象徴的な存在だから、例に引かせてもらおうと、美しきハイ・ミスの仕事もちが集まって、文字通り「おいしいもんをたべる会」を作っている。それが機縁になって、互いの仕事をたすけ合って、充実した成果をあげるようになっていた。舞踊家もおればエディター、演出家、ディザイナー、女性実業家、などととりどりである。さまざまの仕事にいそしみながら、チームワークがとれていて、たとえば、モダンダンスの今岡頌子さんがリサイトを開くと、演出家の岡田美代さんが構成を考えると、ディザイナーの藤本ハルミさんが衣裳を担当すれば、エディターの小泉美喜子さんが企画宣伝を引きうける、といった具合、これが藤本さんのファッションショーでも、同じようにみんなで応援するという仕組み、その彼女らの応援を、私も及ばずながら、またうしろから応援している、というところである。

日舞の花柳芳恵一子さんとか、古典バレエの上月倫子さんとか、会員にはすばらしい女流がいるのだが、会員外にも、タレントの小山乃里子さん、シャンソンの堀郁子さん、それに書道の望月美佐さん、……とこうかぞえてくると、(まだまだすばらしい女流は神戸にいっぱい)女が住みやすい、仕事しやすいところが神戸にはあるのかしら。そういう点でスズンだ街に、ぜひ、してほしいと思う。それこそ二十一世紀の未来の街の条件なのだから。「マカン・ブッサル」はハイ・ミスのあつまりなので、「マカン・ブッサル」の応援団長をもって任じているカモカのおっちゃんは、気にな

ってならないようである。同じく「マカン・ブッサル」の名誉顧問のつもりでいる高橋孟さんに「○子ちゃん、くどいてもええか?」

「いちいち聞き、孟さんは気むずかしく、

「いや、あの子はあかん。神戸の男性のアイドルやから」

「ほな、×子ちゃんは」

「あれもあかん。神戸の男性の希望の光や」

「△子ちゃんはどういや」

「あれもあかん。神戸の男性のマドンナや」

「ほな、会員外の××ちゃんは」

「あれは国宝。祀まつっとくもんで、くどくもんちやう」

などといって、結局、みなダメで、カモカのおっちゃんも邪心をおこさず、女性の地位向上のためにひたすら応援する、ということにおちついたようである。しかし、それぞれの分野で仕事の幅を少しずつひろげ、人生と青春を充実させつつある神戸の女性たちは、神戸が誇りにしてもいいものの一つだと思う。友情とチームワークに支えられて、みな、その場その場で、けんめいに仕事にうちこんでいる。「男の人がやさしいから、仕事できるんです」という彼女らのけなげさ、まあ、幸せな世の中というのは、全くもう、男と女が応援し合うほかにはないのでしてね。それと、女の子がコッコツと、仕事の業績を通して、自分の存在を主張することに尽きるのだ。

しかしそれにしても、みんな、よく食べはるなあ。彼女ら女流の食飲もまた、いずれおとらず、ノビノビとさかんなものであって、それも男性方には、まぶしいばかりであろう。

新しい世代へ

田島 博

△神戸市外国語大学教授▽

一昨年われわれは開学三十周年を祝った。外大の前身である神戸市立外事専門学校の創立から起算して、そういうことにしたのだが、外大の発足からかぞえても、今年でまる三十年が経過したことになる。英語でいうジェナレーション(世代)は、ほぼ三十年とされているところからすれば、外大では一つの世代がおわったわけだ。

三十年は、すぎてしまえば、またたく間で、神戸復興の願いをこめて焼土のなかに創設されたころのことが、つい昨日のように思い出される。しかし、その間、五代の学長のもとで七千をこえる卒業生を送り出され、初期の卒業生は、現在すでに五十歳をすぎ、各方面で重責を担う地位につき、脂ののりきった活動をつづけている者も多い。それを思うと、外大三十年の日々の積みかさなりは、やはり小さなものではなかったのだ。

最近では、親も外大の卒業生だという親子二代の外大生がぼつぼつあらわれはじめ、世代の移りかわりをまのあたりに見る思いがする。教授会の出席者を見わたしても、創立当初からの教官は、あらかた停年退職しており、ほんの数人しか残っていない。一ジェナレーションを三十年とすることの妥当さが、そんなところにも現われている。外大は、新しい世代にはいったのである。

終戦の翌年に発足した外大に新しい世代がおとずれるのなら、時点を同じくする戦後神戸にも、新しい世

代がはじまっているはずだ。戦後の神戸の夢を托されて出発し、神戸とともに歩んできた外大である。神戸の新しい世代への夢の実現をめざして、外大の新しい世代は、その活力を結集してもらいたい。

二十一世紀にむけた神戸の夢は、先年発表された新神戸市総合基本計画に盛り込まれているが、それと、三十年前のわれわれの意識とを思いくらべてみると、戦後の日本のひたむきな努力の意味が浮き出てきて感慨深い。敗戦の結果、資源のとぼしい、荒廃し、狭められた国土に、過剰な人口をかかえて封じこめられたわれわれに残された唯一の生きのびる道として、当時となえられていた貿易立国ということには、切羽つまった悲鳴に似たひびきがあった。国際港神戸に外大が設立された裏にも、その悲痛なひびきが聞こえていた。それから三十年、たゆみない努力がきずいた今日の経済大国日本は、当時予想もしなかったほどの規模だが、それだけに、ひずみも出ている。そのひずみをただして真に輝かしい世紀をむかえたいと願う気持ちだが、新神戸市総合基本計画には行きわたっているようだ。殊に、市民文化、国際情報を五本の柱のうちに加えているのは、神戸の特性からして当然の方向づけだろう。

この方向の具体化の一環として、昨年、神戸研究学園都市基本構想が発表された。これは、西神ニュータウン

計画に含まれる四百五十ヘクタールの地区に研究学園都市を建設しようとするもので、教育、学術、文化の国際交流の拠点をつくることが中心課題になっている。ここでいわれている国際交流は、まさに交流であって、たとえば、外国からの研究者、留学生の受け入れ体制の整備なども強調されている。これまでのいわゆる国際交流は外国での学術、文化を取り入れるためのもので、こちらから提供するほうは、なおざりにされがちだった。その点この構想には、明らかに、発想の転換がみとめられる。これは、日本を取りまく世界の情勢、その中で日本の立場の変化から起因したものと思う。われわれの歴史



史にかつて例を見ない転換期が到来したのである。建学以来外大が目標にかかげてきた国際人の養成も、実質は、外国語の能力をそなえ、外国の文化を理解し、それを取り入れる日本の窓口となる人物を育てることに終始していた。それには、それなりの意義があり、時代の要請にこたえる道でもあった。だが、今後は、それだけでは、すむまい。

たとえば、日本語がよくでき、日本について豊かな知識をもった外国人に出会ったとき、われわれは、その外国人から日本について学ぼうとは思わないだろう。それが外国人である以上、その人が生まれ育った国について学ぼうとするにちがいない。その場合、相手が、日本のことなら知っているが、自分の国のことはよく知らないことと答えたとすれば、まことに奇異な感をおぼえるにちがいない。ところが、われわれの育成してきた国際人なるものにはこれに似た奇異な盲点があったのではなからうか。外国語の能力と外国の知識があるだけでは、日本製品を売りさばくことはできても、日本の文化を提供し、文化交流の担い手となることは難しい。これからの国際人はその一人一人が文化使節であることを自覚し、そのための能力と知識をそなえていなければなるまい。

外大がそのような国際人の養成を旨とすれば、その方向は、神戸研究学園都市基本構想に定められたものと、大いに一致する。外大の、西神地域への移転は、以前から取り沙汰はされているものの、決定の段階には達しておらず、今後曲折を経ることだろうが、二十一世紀にかけの神戸の夢と外大の夢とがとけ合って、輝かしい未来のひらける日が待たれる。



田島 博

大正二年生まれ、神戸二中卒。昭和十三年東京文理科大学英語英文学科。昭和十一年現神戸外大の前身、神戸市立外事専門学校教授を経て、現在神戸外大教授。
日本語学ラポーター学会副会長、関西支部支部長（昭和五十二年七月）、日本文学学会会員（昭和四十七、八年度評議員）、アメリカ文学学会会員、日本時事英語学会会員、日本演劇学会会員。

3月・春風が吹く
nick

優しさに出逢える季節

心の通う店創り

nick

KOBE NAGOYA TOKYO

神戸日建

にしむら珈琲店(KOBE センター街)

本社 神戸市葺合区御幸通3丁目2-20 PHONE 078-252-1321(代)